
刊行に寄せて



文部科学大臣

盛山正仁

少子高齢化の進展、地域間格差の拡大、大規模自然災害の激甚化や頻発化といった様々な社会課題が存在する中で、我が国が発展していくためには、「新たな力」が必要不可欠であり、科学技術・イノベーションは、その新たな力を生む、大きな鍵になります。

令和6年度で計画期間の4年目を迎える第6期科学技術・イノベーション基本計画では、「直面する脅威や先の見えない不確実な状況に対し、持続可能性と強^{きょうじん}韌性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりの多様な幸せを実現できる社会」である“Society 5.0”の実現を掲げ、政府一丸となって取り組んでいるところです。

そのSociety 5.0の実現を支える重要技術の一つである人工知能（AI）技術が、近年急速に進展し、様々な分野での活用可能性への期待が高まる中、より多くの方が恩恵を得られるよう安全で信頼性のある高度なAIシステムを開発・普及していくことが求められています。

我が国は、議長国として開催したG7広島サミットを踏まえ、生成AIのガバナンスの在り方等について議論する「広島AIプロセス」を立ち上げ、同年12月の成果文書の取りまとめにおいても主導的な立場を担いました。また、文部科学省では、生成AIモデルの透明性・信頼性の確保に向けた研究開発や科学研究向けAI基盤モデルの開発・共用、若手研究者・博士後期課程学生の育成等に取り組んでいます。

今回の白書の第1部では、こうしたAI技術の開発や利活用に関する国内外の動向や影響を特集し、政府の対応だけでなく、国内外の大学や研究機関、民間企業等での特色ある取組事例も紹介しています。本白書が国民の皆様にとって、科学技術・イノベーションに関する施策についての理解を深めていただく一助となるとともに、AIの研究開発に携わる方々のみならず、様々な分野でAIの利活用を進める方々も含む関係の皆様にとって、今後の取組の参考になることを願っています。